

うらは平成12年より毎年12月に出産はしていましたが、育児に失敗して子供はすぐに死亡していました。今回も2頭生まれましたが、1頭は死亡しました。

今回は今までの経験を生かし、出産後は飼育の担当者もクマ館にはいっさい入らず、産室に設置してあるマイクから聞える鳴き声を聞きながら成長を見守り、また、クマ館付近を通行止めにし、周囲を静寂にするよう工夫しました。(昨年冬に来園された方には、クマ館を見せられずご迷惑をおかけしました。)

そのおかげで、産室の中から2月中旬にやっと母親と一緒に顔を出し始め、3月中旬の一般公開に至りました。生まれたときは600g程度でしたが、生後100日で10kgまで成長しました。



ミルクは最初の頃、1日5〜6回飲んでいました。



お母さんに見習って泳ぎの練習

りょうしん
Q 両親は？

- A** オス デナリ 平成7年来園。現在10歳。アメリカ生まれ。
- メス ララ 平成8年来園。現在9歳。大分県別府生まれ。

はん しょく むす
Q 繁殖は難しいの？

- A** 母グマは警戒心が強く、子育てに伴うストレスなども影響し、飼育下でも繁殖は容易ではありません。出産はしても母グマが子育てできない事例は全国的に見られます。最近では愛知県のとべ動物園が平成11年に繁殖に成功しましたが、それ以降は成功例がありませんでした。

手足の裏側には、毛が密集し、保温と滑り止めの役割をしています。



お母さんと一緒に

